

# 書くこと①

## 第1学年

観察、記録したことから書くことを決め、まとまりのある文章を書くこと

### つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

わたしのがつこうに  
は、うさぎの「ぺこ」が  
います。  
けはちやいと白  
です。  
耳はたっています。  
けがふさふさです。  
がつこうにきたら、  
ぜひ「ぺこ」をみてく  
ださい。

うさぎのことを書いた紹介文である。「毛」という観点について書かれたところが、同じまとまりに書かれておらず、思いついた順序で書いてしまっている。

### 実践の概要

単元名

しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう

『しらせたいな、見せたいな』光村図書

目標 自分が紹介したい生き物を観察して、メモに書き、それをもとに紹介文を書く。

- 内容
- ・紹介したい動物のメモを取る。
  - ・メモから文章に書き表す方法を学ぶ。
  - ・紹介文を書く。
  - ・新1年生に動物を紹介する。

### 学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』！	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などと関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

### 単元末の目指す姿

- ・メモしたことを観点ごとにまとめることで、自分の考えを明確にできるようになる。
- ・観点ごとにメモを分類することで、まとまりのある文章を書くことができるようになる。

## つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

メモの中から同じ観点で書かれたものを見つけさせ、文で表現させる。

活動のねらい ▶ ・メモは観点ごとにまとめられることを知る。

ここが  
ポイント

- 絵にメモを付け加えさせることで、部分とそこからわかることをつなげることができ、観点ごとに物事を見る目が育てられる。
- 色や形などの観点と、根や茎などの部分としての観点を混同してしまう児童がいる。低学年児童には、まず部分を観点としてもたせると理解させやすい。

### メモの活用例



#### (期待される児童の姿)

メモに書かれたことは、観点ごとにまとめられることを知ることで、その観点についての自分の考えを明確にすることができる。また、観点ごとにまとまりのある文章へつなげることができる。

## つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

メモから作った文を、グループで交流させ、よい文とその理由を考えさせる。

活動のねらい ▶ ・比較してよりよい文を考えることで、メモから文にする方法を学ぶことができる。

ここが  
ポイント

交流のポイントとして、「新1年生にとってわかりやすいかどうか」を意識させるよう助言する。表現相手を意識させることで、表現と目的の関係を考えられる素地を養う。

### 授業の様子



文の終わり方は、「です。」をつけた方がいね。

「やわらかい」より「ふわふわ」の方がいね。新1年生にはわかりやすいね。

その方が、ていねいな感じがするね。

#### (期待される児童の姿)

メモを紹介文に書き換える時には、文末表現や句読点の追加、表現の言い換えなどが必要となる。書き換えるための交流では、誤字脱字などに注目させるだけでなく、相手となる「新1年生」というキーワードを使うことで相手意識をもたせることができる。